

ネクスト・ファーマ・エンジニア養成コース シラバス

開催方法 (○で囲む)	1 ライブ 2 オンデマンド
※配信日時 (ライブの場合)	
科目名	創薬4 体外診断薬としての感染症起炎菌迅速検査法の創薬と臨床応用
担当教員	富山大学医学部 准教授 仁井見 英樹 氏
授業の内容	<p>我々は独自開発した技術(細菌 DNA 汚染の無い耐熱性 DNA 合成酵素や真空採血管、起炎菌迅速同定法:Tm mapping 法、等)を応用して、患者検体中の未知の起炎菌を迅速(採血後4時間程度)に同定かつ定量(菌名&菌数/mL)する新たな技術を開発した。本研究開発の結果、「菌数」は重症度やその後の生存率と相関し、菌数の推移は他のどのバイオマーカーよりも治療効果を正確に反映するとの結果が得られた。尚、本研究は H28~29 年度 AMED ACT-MS および H30~32 年度 AMED ACT-M に採択された。</p> <p>また、我々は独自に工夫したシンプルな血液培養陽性検体前処理工程と ATP 測定技術を基盤として、血液培養陽性後4~6時間で薬剤感受性試験を終える迅速薬剤感受性検査を構築した。本研究の薬剤感受性試験法は、“菌の増殖能のみに依存せず、ATP を定量して菌の生死の程度を測ることにより、薬剤感受性を判定する”ことが基になる。</p> <p>この授業では、以上 2 つの開発において苦労したことや、研究者として大切だと思うこと、研究における楽しみ等について、体験談(雑談?)を交えながら話をする。堅苦しい内容ではないので、肩の力を抜いて気軽に聴講して欲しい。</p>
学生の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究開発の体験談から「研究で大切と思われること」を学ぶ 2. 研究者とはどういったものか、研究留学とは何か?を知る
キーワード	Tm mapping 法、菌数、ATP、薬剤感受性試験
その他、受講上の注意事項や学習上の助言など	自分の個性や興味、得意なことを熟知した上で、自分なりに研究に向き合うための哲学(のようなもの)を確立してください